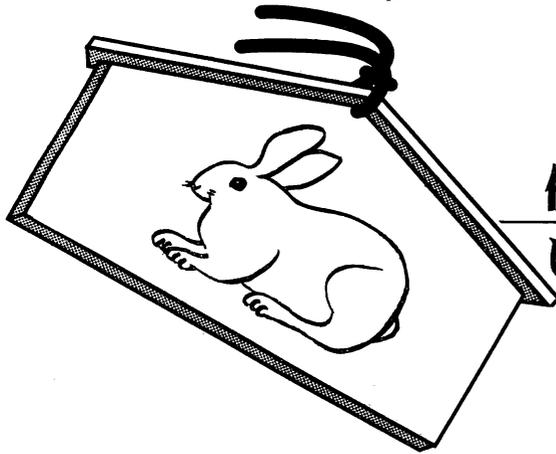


出会い ふれあい 助け合い

# サロンのあべの

VOL.152



## 優しい出会いを求めて いつでもサロンは新しい

へサロン・あべの1月の出会い

99年1月16日(土)、1月の出会いは、毎年恒例の新年会を上本町のハイハイタウン3階の中華料理「杯杯」において開催しました。

今回お世話になりました中華料理店「杯杯」は、入口の段差がなく、店内も車椅子の人でも十分なスペースがあり、落ち着いた雰囲気のお店です。

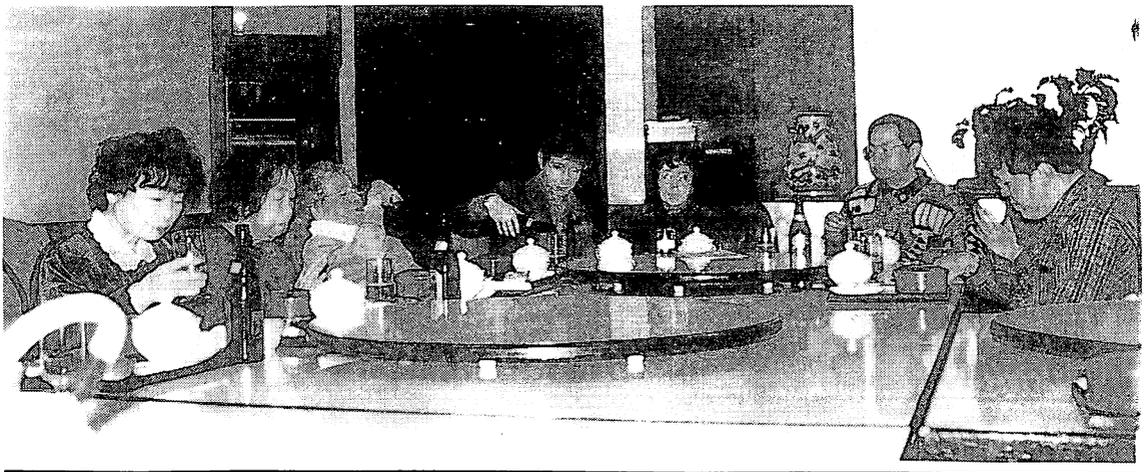
さて、お料理とビールが各自に行き渡り、いつもへサロン・あべのVを応援していただいている石原さんに乾杯の音頭をお願いしました。

お料理は、「杯杯」特別定食で、蒸し鳥のゴマソースや牛肉とピーマンの細切り炒め、そしてフカヒレスープなどでした。

おいしいお料理を堪能した後、コーヒーを飲みながら福袋の抽選をしたり、新年の抱負を一言ずつ言ってもらったりして、新年会は和やかに進んでいきました。

参加者17名

(山村貴司)



アクシデント

福祉センター（東大阪市）の文章教室の講師を担当して、この四月で三年になる。生徒さんは十人足らずだが、月に一度開かれる教室はいつも和気あいあいとした雰囲気がい、規定の二時間もあつという間に過ぎて行く。

さて一月の文章教室が開かれた時のことである。いつものように挨拶を終えて宿題の作品を順番に発表してもらうことにした。最初にTさんが読み始め、もう少しで終わろうとした時だ。Tさんの向いに座っていたAさんが突然発作を起こし、ウォーッと唸りながら倒れかけたのである。運良くAさんの横にスタッフの方がおられたので素早く立ち上がり、Aさんを自分の椅

# 晴れのち晴れ

⑤

稲垣 恵雄

子に寝かせた。そしてしばらくしてスタッフが「隣の仮眠室にベッドがあるので行きましょう」と、Aさんを抱き起こし、連れて行こうとされた。

そうすると、Aさんが「もう大丈夫です。ここに居らせて下さい。みんなの作品を聞き、勉強したいのです」と、泣くように言うのである。彼の熱心な態度に一樣に感心していた。もし私がAさんの立場だったら、これ幸いとばかりに仮眠室へ行っていたのには違いない。

Aさんがこれほどまで向学心の念に燃えているからこそ博識、博覧強記であることが納得できた。「教えるとは学ぶことなり」という諺があるが、この時ほどこの言葉がひしひしと感じたこととはなかった。

## お知らせ

サロン・あべの3月の出会い

日時 3月20日(土) 午後1時〜4時

場所 育徳コミュニティーセンター研修室

(阿倍野区阪南町5-15-28)

スロープ、車いすトイレ有り)

テーマ 「仲間による癒し」

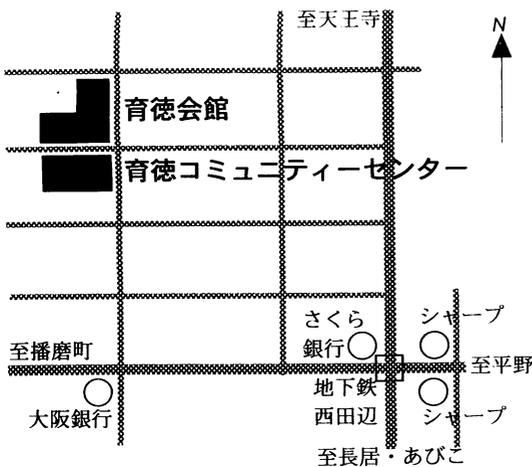
パネラー 上智大学文学部社会福祉学科

助教授 岡 知史

会費なし

お申し込み・お問い合わせ先

☎06(6691)1028 (富田慶子)



## ピア・カウンセリングを考える

—ありのままの自分を受け入れ、  
生き生きした生活を送るために—



伊藤智佳子

### 3. ピア・カウンセリングの技術

(3) カウンセラーとカウンセリーの役割交代①

ピア・カウンセリングの特徴として、再評価のカウンセリング(R・C)の一つの手法としての「感情の解放」のほかに、カウンセラーとカウンセリーの役割交代を挙げることが出来る。

従来のカウンセリングでは、治療者と対象者、カウンセラーとクライアントといったように、常にクライアントはカウンセリングを受ける側であった。ピア・カウンセリングの技術の中には、受容、傾聴やロジヤースの来談者中心療法の技法が取り入れられ、従来のカウンセリングの技術と共通する部分もあるが、従来のカウンセリングでは、意識的にカウンセラーとカウンセリーの役割を交代し、一人の人がカウンセリーの立場でカウンセラーとカウンセリーの二つの役割を交代するということはないように思われる。

カウンセラーとカウンセリーの役割交代

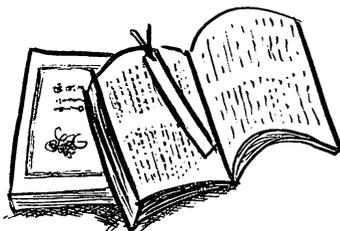
前号(VOL. 151)では、どのような状況の場合には、どのような感情の解放の仕方があるのか、そしてそれがどのような行動につながるのかを中心に整理した。今回は、ピア・カウンセリングの特徴のうち、カウンセラーとカウンセリーの役割交代について若干の整理を試みる。

現状】

には、二つの意味があるように思われる。

① 一定時間内で、時間を分け合い、カウンセラーとカウンセリーの二つの役割を経験することは、カウンセラーとカウンセリーの間に上下関係を作りにくいということ、つまり、対等な関係の構築が可能となるということ、

② 従来、管理・保護の対象とされ、援助の対象とみなされてきた障害をもつ人たちが、ピア・カウンセリングという構成された空間ではあるが、カウンセラー役を体験することを通して、自分も援助する側になるということ、である。



## ★ 普段考えていること

「いったい何を考えているんだ？」とは、相手を叱ったり侮ったりする言葉だ。理解しがたい人の言動に対して、このように言うのだろう。

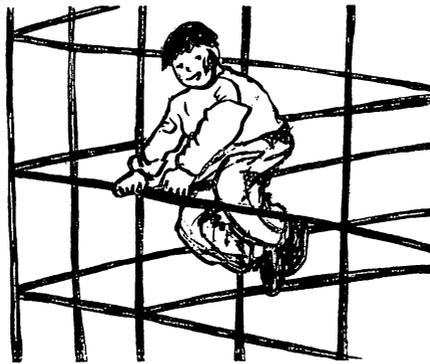
ところが、最近では、毎月のサロンの原稿締切日になると、その言葉を私は自身に投げかけている。「いったい、この一ヶ月、何を考えてきたんだろう？」

ここ数年、サロンの原稿を書くのは、いつも与えられた締切が過ぎてからだ。どうしようもなく追い詰められてから書いている。だから、あまり良いものが出てこない。

ワープロの前に座ると、思いつくのは、いつも二つのテーマしかない。ひとつは「忙しい」ということ。もうひとつは「片付かない」ということだ。二つとも、実際くだらないテーマだ。しかし、どうにもならなくなつて「片付かない」というテーマでは、いくつか書かせてもらった。

「忙しい」と口癖のように言う人が世

間には多くいるが、そういう人は正直いって、あまり好きではない。「忙しいのはたいていは自分の選択の結果ではないか。だったらそれで愚痴を言うのはやめてほしい」と思う。まして、多忙を口実



に周囲に迷惑をかけている人間は嫌だ。そして自分自身がそういう部類の人間になつていくことに気づくのが、このサロンの原稿の締切日なのである。

もう一方の「片付かない」というテー

マは語るのも恥ずかしい。単に自分がだらしないだけである。しかし、このテーマは私の脳裏に焼き付いて離れない。なんとかして片付けたい、片付けたいと親の仇のように思いつづけている。片付けられないというテーマなら、私は原稿用紙百枚でも一気に書けるような気がする。しかし毎日、考えていることが「忙しい」ということと「片付かない」ということだけなら、私の内面はなんと貧しいことだろう。

生きることにについて真剣に考えるのは、多くの人にとっては青年時代と老年の時代だけだという。子どもからの自由を奪われ、大きな社会のなかに埋もれていく苦しさに青年は生きることとは何かを問い、一方、あくせくした毎日から解放され、生の終わりを迎えようとする老年の人もまた、自分の生きてきたことを思う。

その生き方に迷うほど若くはなく、

振り返るほどに老いていない中間の人々は、乱暴にいえば、ただ昨日のように今日を生き、今日のような明日に備えるだけだ。おそらくは心身を病んだり疲れたときのみ、深く考える余裕が与えられるのだろう。

そう考えれば、毎月のようにやってくるサロンの原稿の締切日は私にとって貴重な時間だ。このひと月、自分は何を考えてきたのか、どんな思いで生きてきたのかを反省とともに振り返る機会を与えてくれるのである。(知)

## 感謝

カンパ、はがき、テレホンカード、卓上日めくり、マスコット人形等の寄贈、またサロングッズのお買上げ、ありがとうございます

飯田周子、稲垣恵雄、

大阪義肢装具センター(石原 栄)、

大畑民代、岡 賀寿子、加賀谷 正、

笠原美和子、坂井柁予、崎本ヒサエ、

広岡泰枝、松本妙子、山本敏子、

その他の方々、

## ささみみずさん

### 定藤丈弘先生の訃報

△サロン・あべのVでは二三年前に一度、障害者福祉をべーすにしたお話をお願いしていた定藤丈弘先生(大阪府立大学文学部社会福祉学科教授)が一月三〇日に亡くなられました。急な訃報に信じられない思いでした。聞くところによりますと、風邪気味から容態の急変で還らぬ人に…。

定藤先生との初めての出会いは十五〜六年前に大阪市立婦人会館での地域福祉の講座を受けている時でした。車椅子で来られるとのこと、受講生が夕陽丘のマンションへの送迎をしま

した。講義は楽しく、車椅子を使用されている先生がおられる事に私は感動しました。この時も先生は、初対面の受講生方に優しいにこやかな笑みを返してください、嬉しく思ったのを思い出します。

その後、奇しくも△サロン・あべのVで講演のお願いをすることになりましたが、いつもにこやかに楽しい雰囲気でお話くださっていました。サロン活動の大きなよりどころでもありました。本当に残念なことです。ご冥福をお祈りします。

(と)

# 植物あれこれ

## 第一回

### 山口康二郎

—花は目のみで愛でるにあらず—

「山野先生を偲ぶ」の連載を終えてやれやれと思っているのに編集のI氏から今度は「植物あれこれ」という題で何か書けとの命令、いやはやハサロン・あべのVの人使いの荒いこと。

#### —閑話休題—

私は植物学者でも何でもありません。第二の人生のテーマをエコロジーとバリアフリーと考えて、やりたいことをやるという非常に気楽な生き方をしています。

その中で感じたこと、教えられたこと、驚いたこと（この年で新発見の多いこと）など、植物にからめてアトランダムに書いてよいとのことですので、引き受けた次第です。どうぞ、気楽に読み流してください。バリアフリーといえ、私の仕事の一つに視覚障害者ガイドヘルパーがあります。

阿倍野区のKさんはその縁で知り合い、

毎月一回長居の障害者センターにご一諸している方です。十二月は定例の趣味の会が取り止めになり、Kさん念願の長居植物園に行くことになりました。



入口を入った所にシクラメンの鉢植えがずらりと並んでいました。Kさんは一つひとつ触れながら「ワー、きれいに咲いているね」と声を上げて丁寧に指を当てて本当に

楽しんでいらっしやった。

池の手前を右に折れると葉ぼたんが群植されていた。かれこれ白五〇〇、赤五〇〇、ぐらいある見事なものでした。

「ここから紅色の葉ぼたんです」と伝えますと、今度も一つひとつゆっくり指で触れながら移動されていました。そのうち「ここから白ですね」とKさんの声、正しくそこから白に変わっていました。「どうしてわかりますか」と問う私に、Kさんは「そりゃ白の方が葉っぱが柔らかいですよ」。あわてて私も手でさわってみました。そういわれれば確かに白の方が外側にいくほど手触りが柔かい。

「見事やなあ、きれいに咲いてるなあ」Kさんが本当に花を楽しんでおられる様子に私の心も浮き浮きしてきました。

きっと植物園のあのシクラメンも葉ぼたんも久しぶりに「手当て」をしてもらって喜んでいることだと思えます。

—花は目のみで愛でるにあらず—  
Kさんに感謝

## 美智子のこんな話

岸田美智子

外出先をどんどんつくろう

交通が不便な所に多く存在する入所施設からの外出には、まだまだ困難な問題がいろいろあります。例えば、介護者がいないという問題、施設の管理が厳しくて行き先を決められてしまう。タクシーなどを使って外出しなければならず交通費がかさむ。施設の門限時間が早く、外出時間に制約があります。施設生活の改善やライフ・ネットワークの活動で、少しずつ入所施設からの外出がスムーズにできるようになっ

てきました。

こゝで問題になるのは、外出先が見つからないということです。施設障害者の多くは、幼い時から施設に入っていたり、長い在宅生活から施設に入ったりすることが多く、地域との繋がりや人間関係がほとんどありません。そのような状況の中では、映画や買物、食事、観光などの遊びぐらしか思いつかず、このような外出先だけでは、三〜四年もするともう飽きてしまう人や、もう外出はいらなれないと思ってしまう人も多く、せつかく当り前の外出に近づいたのに、生活の幅を広げていくことに繋がっていく外出にはなっていないのです。

もつともつと、何か講座や勉強会などに続けて参加するとか、仕事として参加するとか、社会的な目的を持った外出を作りあげていくためのエネルギーのようなものが、なかなか施設障害者の方には、わいて来ないようです。やはり外出には楽しさが必要であり、外出することによって何かを作りあげたり、違う自分を見つけたらいいしてほしいものです。

その一つの例として、自立生活センター

くまいどくが昨年の暮れから取り組んできた。劇団「態変」のオーディションへの施設障害者の参加があります。

このオーディションで受かった方は、大阪市主催で三月に行われる芸術祭に、「態変」のメンバーとして参加していきます。その時の「態変」の行う劇に、エキストラとして五〇〜六〇人のいろいろな障害者が参加していく予定です。思い思いの面白い方で、とても迫力がありそうです。現在本番に向けて数回稽古があり、それにも施設障害者が多数参加しておられます。

このように、はつきりとした目的や役割を持った外出を、施設障害者の方々もどんどん作ってほしいものです。施設の外からも、このような場をどんどん考えて、施設で暮らす人達に提供してほしいと思います。

○ライフネットワーク

住所 〓〒558-1000 1

大阪市住吉区大領5-10-16

TEL 〓06-66607-8260

FAX 〓06-66607-5503

アメリカからのお便り

Dear Kuke -

Jan 3, 99

How are you and your family?  
I hope the New Year is filled  
with health, love, wealth and  
strength.

What do you do for New Years?  
Here they have parties and drink  
champagne. We do not drink  
alcohol at we stay home. We  
rented VCR movies.

It is very cold. In 2 weeks it  
has snowed 10-15 inches. The  
cold makes my pain bad, does  
the cold make your pain bad?

Our friend Ma Tae Suk in  
Korea sent me a very nice  
Christmas gift. You know in Korea  
they do not sign their name they  
use a stamp. For Christmas Ma  
sent me a stamp of my face! It is  
kawaii. He is very thoughtful.

Do you celebrate Christmas?

Take Care and Good Bless,  
Patti



1999年1月2日

慶子様

皆様いかがお過ごしですか？

新年が、健康と、愛と、富と、力にあふれた  
ものであるように願っています。

そちらでは、お正月にどんなことをするの  
ですか？

こちらでは、パーティーをひらいて、シャ  
ンパンをいただきます。でも、私たちは、ア

ルコールは飲まないで、家においてレンタル  
のビデオを見て過ごします。

このところとても寒い日が続き、この2週  
間で雪が30cmほど積りました。私は、寒  
いと痛みがひどくなるのですが、あなたはそ  
んなことありませんか？

韓国の友人のマー テイショクさんから、  
素晴らしいプレゼントをいただいたんですよ。  
韓国では、サインの代わりに印鑑を押すでし  
よ。なんと、マーさんは、クリスマスプレゼ  
ントに、私の印鑑を作ってくれたんです。

信じられません。

何と気の利く人なんでしょう。

日本では、クリスマスのお祝いはするんで  
しょうか？

お体お大事に。

神のお恵みがありますように。

パティ トラッキー

(訳=林 正弘)

朗読テープのご案内

朗読グループ「ぼけっと」のご協力で、  
Aサロン・あべのV紙一五二号の録音テー  
プ(六〇分)が出来ました。

朗読テープ文庫

1. Aサロン・あべのV紙は、第一号よ  
り一五一号までそろっています。(五〇  
号は、九〇分と六〇分の二本のテープに  
一〇〇号は、一二〇分テープ二本)
  2. Aサロン・あべのV十周年記念誌  
「はあとが、はろー！」(九〇分テー  
プ二本+一二〇分テープに収録)
  3. 絵本「未知の記憶」(作絵=中川勝彦)
  4. 「ラジオたんぱ」放送『Aサロン・  
あべのV平成七年五月の出会い』放送分  
(三〇分)
  5. エッセー集「逃げたクヨナクボラ  
ンティア活動の周辺」(岡本栄一著・  
糸でんわ音訳)
  6. 「キミたちだけじゃ困るんだ」身障  
者だけで旅した十余年」(山田誠1985  
・28著・糸でんわ音訳)
  7. 「金子みすゞへの旅」(島田陽子著  
九〇分テープ二本・糸でんわ音訳)
- いずれもご希望の方には、ダビング、ま  
たは貸出しをしますので、富田までお申し  
出ください。(☎〇六六六九一・二〇二八)



## サロン隣組ニュース

### ■「サロン淀川」3月の出会い

日時 ; 平成11年3月21日(日)  
午後1時30分～午後4時  
場所 ; 「やすらぎ」  
[大阪市淀川区三国本町2-14-3]  
内容 ; 「日本に暮らして10年、  
文化の違いを分かるには」  
～餃子を作りながら  
楽しい語らいをしましょう～  
パネラー : 王<sup>わん</sup> 曉<sup>しやう</sup> 民<sup>みん</sup> 氏  
日本に留学し結婚、淀川区在住  
子育てに奮闘中  
会費 ; なし  
問い合わせ先 ; 淀川区社協 ボランティア・ビューロー  
TEL 06-6394-2900

### ■「ウイズ東淀川」3月の出会い

日時 ; 平成11年3月14日(日)  
午後1時30分～4時  
場所 ; 東淀川区民会館4階会議室  
[大阪市東淀川区東淡路1-4-53]

内容 ; 「視覚障害者のつよ～い味方  
だっちゅうの！」

パネラー ; 速水 洋氏  
大阪市身体障害者団体協議会  
在宅視覚障害者の訪問指導員・  
白杖歩行訓練士  
会費 ; 無料  
問い合わせ先 ; 鈴木 昭二  
TEL・FAX 06-6340-3082

### ■「サロンいたみ」3月の出会い

日時 ; 平成11年3月27日(土)  
午後2時～3時  
場所 ; 伸幸苑(伊丹市寺本6-150)  
[TEL 0727-78-6765]  
内容 ; 朗読の会  
「外郎(ういろう)うり」  
「へっこき嫁さん」他  
朗読 ; ボランティアグループ  
「ささやき」  
会費 ; 無料  
主催 ; すみれ会(ボランティアグループ)  
申し込みと問い合わせ先 ; 西原(19時以降)  
☎ 0727-79-4078

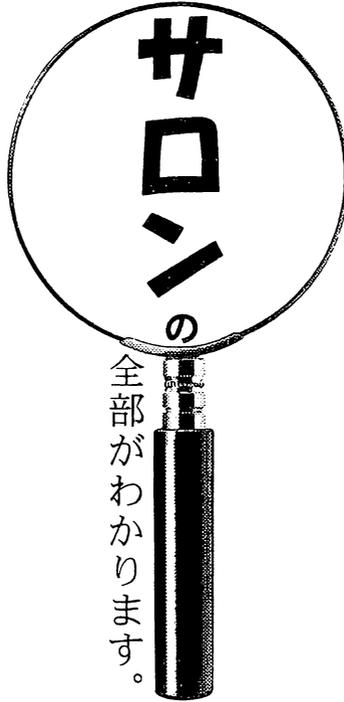
# これは便利。

贈り物をするときや、本や写真を  
送るときなどにひとこと添えたい  
場合、便利なのがこの一筆箋です。

## サロンの一筆箋

1冊100枚綴 ¥150

はあとが、はろー！は  
もう  
お読みになりましたか。



**はあとが、はろー！**

頒布価500円（送料別）

編集後記  
**FROM EDITOR**

「サロン紙が届いてすぐに一気に読むのは毎月、サロン活動をし、サロン紙を出されている皆様のエネルギーが、乗り移るから」とお便りをいただきました。また「12月の出会いの記事からは楽しい、あったかい雰囲気がよく伝わって来ます。毎回サロン紙を通じてサロンに参加させていたゞけることに感謝」とも。ありがとうございます。(石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.152[99. 2.20.発行] 定価¥100.

代表；上平幸雄〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-6621-4365

連絡先；富田慶子〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-6691-1028

表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941

印刷；セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDELL2F ☎06-6719-8212

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)